

ソーシャル・フェアプレーへの取り組み

サポーターによる差別的行為に対し横浜F・マリノスに制裁を決定

Jリーグの村井 満チェアマンは、8月23日に開催されたJ1リーグ戦第21節の横浜F・マリノス vs 川崎フロンターレにおいて発生した横浜F M サポーターによる差別的行為について、裁定委員会に諮問し、横浜F M に対し以

下のとおり制裁を決定した。

Jリーグは日本サッカー協会、Jリーグ全クラブと共に、差別を断固として許さない強い態度で、繰り返し啓発の機会を創出することを確認し、さまざまなコンプライアンス研修や差別撲滅活動を実施していく。

制裁内容(抜粋)	
1. 対象事実	2014年8月23日19時キックオフ ニッパツ三ツ沢球技場にて行われた、Jリーグディビジョン1 第21節「横浜F・マリノス vs 川崎フロンターレ」の試合において、横浜F M のゴール裏サポーター1名が、川崎Fの選手に対し、バナナを投げ、振る挑発行為があった。
2. 制裁内容	(1) けん責(始末書と、将来を戒める) (2) 制裁金500万円
3. 制裁の理由	横浜F M サポーターが試合中に相手チームの選手に対しバナナを投げ、振った挑発行為は、国際社会では人種差別を象徴する許されがたい行為であり、実行者はそのことを認識していた。本行為は人種差別的行為といえる。 横浜F M は当該試合が神奈川ダービーであることから事前にサポータートラブルの発生を想定し、ソーシャルメディアを中心とする監視体制を強化しており、本件を素早く把握するとともに、発生後は速やかに実行者を特定し、事実関係を確認した上で無期限入場禁止処分を科し発表した。また川崎Fに対しても速やかに謝罪を行った。これにより、横浜F M の当該試合に対する監視体制や本件発生後の対応は適切であったといえる。しかしながら、クラブは人種差別的行為の発生を予防する高度な責務を負うところ。クラブのファン・サポーターへの啓発活動が十分であったとはいえず、たとえ本件が当該サポーターの単独行為であり、クラブとして予見することが困難であったとしても、啓発を尽くして本件の発生を予防すべき義務を尽くさなかった責任はクラブにある。

「JFA リスペクト フェアプレー デイズ 2014 差別、暴力のない世界を!」に協力

Jリーグは、9月5～14日に公益財団法人 日本サッカー協会(JFA)が行った「JFA リスペクト フェアプレー デイズ 2014 差別、暴力のない世界を!」の取り組みに協力した。

同活動は、サッカーやスポーツの現場で顕在化するさまざまな差別や暴力に反対、撲滅する意思を強く示し、これらの問題発生を未然に防止するよう、啓発を行うことを目的としている。同活動を通じて、リスペクト(大切

に思うこと)、フェアプレーの精神を共有し、差別や暴力に断固反対するメッセージを広く伝えた。

Jリーグは、13、14日に開催されたJ1・J2・J3の各試合で選手による差別/暴力根絶宣言の実施、啓発映像への選手出演、前述の試合会場におけるプロモーションビデオ放映、バナー掲示を行い、6日には日本サッカーミュージアムで開催されたシンポジウムへ参加した。



シンポジウムで基調講演を行った大河正明Jリーグ常務理事。Jリーグの取り組み、姿勢についてスピーチした



Jリーグの試合会場ではキックオフ前に両キャプテンが「差別/暴力根絶宣言」を読み上げた(日産スタジアム)

横浜F・マリノスへの制裁に対する村井チェアマンコメント

このたびの横浜F・マリノスのサポーターによる差別的行為について、極めて遺憾でなりません。

挑発行為を受けた選手、川崎フロンターレの関係者やファン・サポーターの皆さま、また不快な思いをされた多くの皆さまに深くおわび申し上げます。

Jリーグでは、昨今の差別断絶への世界の動きと同様に、また特にこの3月の浦和レッズサポーターによる差別的横断幕掲出の事件以降、全クラブと共に危機感を高め、情報共有および監視策、啓発活動を通じた防止策を講じてきました。

今回私は、差別的事象が発生した際のクラブの責任をどのような観点から検証するかについて、①啓発活動、②監視体制、③発生後の対応、の3点から検討いたしました。横浜F M の当該試合での監視体制や発生後の対応については適切であったと思いますが、結果的にファン・サポーターの皆さまへの十分な啓発活動がなされていたとはいえず、クラブの責任を問うこととなりました。横浜F M は3月に起きた浦和の差別事件以降、速やかにクラブ内の人権研修を実施するなど、強い意志を持って率先して差別問題に向き合ってきたクラブの一つでしたが、啓発という点においては、Jリーグ、横浜F M ははじめ、他の多くのJクラブにおいてもまだまだ十分な活動が行われているとはいえません。本件は、一クラブの問題にとどまらず、サッカー界全体の、ひいては社会全体の問題として、一人ひとりが主体的に向き合わなくてはならないものであることを示唆していると考えます。

Jリーグは引き続き、日本サッカー協会およびJリーグ全クラブと協働し、断固として差別を許さないという強い態度で繰り返し啓発の機会を創出していきます。

同時に、ファン・サポーターの皆さまとも、「差別」という世界中全ての場所で起こり得るこの根深い問題について、共に考え、向き合い、サッカー界だけではなく社会全体の問題として、一緒に世の中に提言し啓発に取り組んでいきたいと考えております。

多くのファン・サポーターの皆さまにおかれましては、日頃よりスタジアムの内外でJクラブや選手たちの応援・サポートを通じてJリーグを盛り上げていただき心より感謝しております。

4月に発表したJリーグ・フェアプレー宣言でも申し上げましたが、私たちは、安心かつ安全で快適、そして年齢、性別、国籍などの区別なく誰もが夢を見て、楽しめるJリーグでありたいと考えています。

こうした考えに基づき、Jリーグのスタジアム内外におけるメッセージや言動は、それに触れる方々が共感し、感動を共有できるものになるようご協力をお願いいたします。

Jリーグを「世界で一番フェアでオープンなリーグ」にしていくために、皆さんと共に考え続けていきたいと思っております。



©J.LEAGUE PHOTOS

《参考》差別に対する国際サッカー連盟、日本サッカー協会、Jリーグの取り組みと懲罰規定

国際サッカー連盟(FIFA)

FIFA憲章 第3条(反差別および反人種差別の姿勢)

人種、肌の色、民族、国籍または社会的出自、性、言語、宗教、政治的またはその他の信条、財産、出自またはその他の身分、性的指向、またはその他の理由による、国、個人、またはグループに対する、いかなる種類の差別も、厳しく禁じられ、資格停止または追放によって罰せられる。

2013年5月の決議

- ①教育: アクションプラン実行の義務付け
- ②防止: 各大会に反差別オフィサー設置
- ③懲罰規定の順守

FIFA懲罰規程(FDC) 第58条 抜粋(差別)

- a) 差別的あるいは侮辱的な発言または行為により、個人あるいは団体への尊厳を害する者は、最低5試合以上の出場停止。さらにスタジアムへの入場禁止および2万スイスフラン(約230万円)以上の罰金が実行者に科される。違反者が役員である場合は3万スイスフラン(約340万円)以上。
 - b) 同一のクラブまたは協会の複数の人間が同時に前条に違反した場合、チームは初回は3点、二度目の違反は6点の勝点減。さらなる違反の場合は、下位ディビジョンへの降格となる。
 - c) サポーターが本条a)に違反した場合、その行為が非難に値するものがある場合は過失によるものに関わらず、当該協会またはクラブに対して最低3万スイスフランの罰金が科される。
 - d) 重大な違反には追加的な制裁が科され、特に無観客試合、没収、勝点の減縮、または協議会の資格剥奪などを含む。
3. 観客が本条1. a)に違反した場合、最低2年間のスタジアム入場禁止を受ける。

日本サッカー協会(JFA)

JFA規約 第3条(遵守義務)

人種、性、言語、宗教、政治又はその他の事由を理由とする国家、個人又は集団に対する差別は、いかなるものであれ、厳格に禁止されるものとし、これに反する場合には懲罰の理由とされることがある。

JFA懲罰基準(3-5差別)

人種、肌の色、性別、言語、宗教、又は出自等に関する差別的あるいは侮辱的な発言又は行為により、個人あるいは団体の尊厳を害した場合、以下のとおり懲罰を科すものとする。

- (1) 選手等(アマチュア含む)の場合。原則として最低5試合の出場停止処分および10万円以上の罰金。
- (2) 同一チームの複数の個人: 勝点減
- (3) サポーター: その有責性に関わらず当該チームに40万円以上の罰金。重大な違反には無観客試合、試合没収、勝点減、競技会資格剥奪等。
- (4) 観客(サポーター含): 最低2年間、スタジアムへの入場を禁止。

Jリーグ	J F A コンプライアンスへの主な取り組み	Jリーグ コンプライアンスへの主な取り組み
Jリーグ規約第3条第4項 Jリーグ関係者(Jリーグの役員、Jリーグの会員およびその役員ならびにJリーグに所属する選手、監督、コーチ、審判その他の関係者)は、いかなるものであれ、人種、言語、宗教、政治またはその他の事由を理由とする国家、個人または集団に対する差別を行ってはならない。 Jリーグ規約第142条(制裁の種類) (1) Jクラブに対する制裁の種類 ①けん責 ②制裁金(1件につき1億円以下) ③中立地での試合開催 ④無観客試合の開催 ⑤試合の没収 ⑥勝点減 ⑦出場権剥奪(次年度リーグカップ戦出場権剥奪) ⑧下位ディビジョンへの降格 ⑨除名(※その他Jクラブに所属する個人に対する制裁もあり)	●差別撲滅への取り組み ー差別禁止・懲罰条項(JFA規約) ーリスペクトフェアプレー委員会設置 ーリスペクトフェアプレーデイズ2014実施(9月) ●ドーピングへの取り組み(アンチドーピング) ーJリーグ・天皇杯など主要大会でドーピング検査実施 ー上記リーグ所属クラブへの教育・啓発活動 ●暴力・ハラスメントへの取り組み(リスペクトフェアプレー委員会) ー暴力相談窓口の開設・都道府県協会含めての事実確認 ー指導者からの宣誓書提出・指導者講習会での啓発活動 ●違法賭博・八百長への取り組み(インテグリティ協議会) ーFIFA EWS(Early Warning System)と契約 ーJリーグ各クラブへの啓発 ー顧問契約弁護士より国際情報の早期収集	●差別撲滅への取り組み「2014年4月3つのフェアプレー宣言」 ー差別禁止・懲罰条項(Jリーグ規約) ーサポーターへの反差別チェアマンメッセージ発信 ー全クラブにコンプライアンスオフィサー設置・ソーシャルフェアプレー研修の実施 ー法務省の協力を得て、人権研修の実施 他 ●ドーピングへの取り組み(アンチドーピング) ーJFA/JADAと連携し、公式試合でドーピングテスト実施 ●暴力・ハラスメントへの取り組み ー2011年11月「Jリーグ暴排ヘルプライン」を創設 ー2012年2月「暴力団排除宣言」 ●違法賭博・八百長への取り組み ー2011年11月 FIFA EWS(Early Warning System)と契約 ーJFA インテグリティ協議会との連携/Jリーグ各クラブへの啓発
Jリーグ コンプライアンス研修 実施状況 全クラブの研修状況 ※9月21日現在 ①八百長防止研修:8月末で全クラブ完了 ②不当要求防止責任者講習:29クラブ受講済。12月末まで ③人権研修:9月末までに全クラブ完了予定 ④SNS研修:2013~14の2年間で合計28回開催	横浜F・マリノス ①八百長研修:6月21日、八百長研修済 ②人権研修:7~8月で計5回、142人済 ③サポーター向け人権研修:9月1、2日 60~100人	

TOPICS トピックス (8月20日~9月16日)

※各項目の詳細については、Jリーグ公式ホームページ (<http://www.j-league.or.jp>) を参照

2014 Jリーグ 月間ベストゴール/コカ・コーラ Jリーグ月間MVP

各月のJ1リーグ戦で最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」に、8月度はDF西 大伍(鹿島アントラーズ)が第18節のサンフレッチェ広島戦(8月2日)で70分に決めた得点が選ばれた。MF小笠原満男のCKをワンタッチのボレーシュートで蹴り込んだ、鮮やかな得点だった。月間ベストゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞は12月9日(火)のJリーグアウォーズで表彰される。

一方、各月のリーグ戦(J1、J2)において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ月間MVP」は、8月度のJ1はMF柴崎 岳(鹿島)、同J2はMF松下山宏(横浜FC)が選出された。受賞者にはそれぞれ30万円、20万円の賞金が授与される。



鮮やかなボレーシュートを決めた西(左から2人目)



「チーム内の責任感が昨年より増した」と話す柴崎



松山は「賞に恥じない努力を続ける」とコメントした

日本代表のアギーレ監督がチェアマン室を訪問

SAMURAI BLUE(日本代表)の監督に就任したメキシコ人のハビエル・アギーレ監督が、8月25日にチェアマン室を訪れ、村井 満 Jリーグチェアマンと懇談した。

メキシコの選手育成を高く評価する村井チェアマンは「これからも積極的に意見交換をしていき

たい」と話し、アギーレ監督も「Jリーグの試合を積極的に視察していきたい」と応えた。

また、村井チェアマンは9月7日から10日にかけて、スイスのチューリヒにある国際サッカー連盟(FIFA)を初めて訪問。各大陸連盟やリーグ、クラブ代表者らが集う会議に出席した。



アギーレ監督(右)と村井チェアマン

Jリーグの新たな観戦スタイルの提供へ「リアサカLIVE Jリーグ」を開始

Jリーグは、株式会社Jリーグメディアプロモーションおよびデータスタジアム株式会社と共同で、Jリーグの新たな観戦スタイルを提供する「リアサカLIVE Jリーグ」(Windowsストアアプリ)のサービスを2014年9月13日より開始した。Jリーグの試合を見ながらセカンドスクリーンとしてタブレットで試合データをチェックしたり、Windowsのマルチタスク機能を活用することで、タブレットで試合観戦しながら、アプリを表示させてJリーグ観戦をより一層楽しめる。詳細は以下のとおり。

リアサカLIVE Jリーグ				
サービス名	リアサカLIVE Jリーグ			
対応機種	Windows 8.1			
価格	無料			
ダウンロードURL	http://apps.microsoft.com/windows/ja-jp/app/live-j/1ea30e40-814e-488c-88e3-6e8722eb6322			
対象試合と期間	2014 Jリーグディビジョン1 各節1試合(第23~34節)			
節	開催日	キックオフ	対戦カード	スタジアム
27	10月5日(日)	19:00	新潟 vs 川崎F	デンカS
28	10月18日(土)	19:00	鳥栖 vs C大阪	ベアスタ
29	10月22日(水)	19:00	浦和 vs 甲府	埼玉
31	11月2日(日)	19:00	鳥栖 vs 神戸	ベアスタ

※第32節以降の対象試合はTV放送が決定次第確定

ミニゴール寄贈

Jリーグは9月16日に開催した理事会で、「Jリーグ TEAM AS ONE 募金」の使途として、岩手県、宮城県沿岸部ならびに福島県(会津地区を除く)の幼稚園・保育園など計196カ所に、ミニゴールを寄贈することを決定した。東日本大震災の影響で体を動かす機会が減った幼児に、楽しく体を動かすきっかけを提供することが目的。

広島土砂災害に対する義援金について

Jリーグは9月16日に開催した理事会で、8月20日に発生した豪雨による大規模な土砂災害により被害を受けた広島市に対する支援として、義援金200万円を拠出することを決定した。

2014読書週間企画「フットボール×ブックフェスティバル2014」を後援

Jリーグは9月16日に開催した理事会で、10月31日(金)に日本サッカーミュージアムで開催される『2014読書週間企画「フットボール×ブックフェスティバル2014」』(主催:図書館海援隊サッカー部)を後援することを決定した。同フェスティバルは、「サッカー本」に関わる著者、出版社、書店、図書館、そして読者・サポーターが一堂に集い、「サッカー本」の魅力や豊饒なフットボール文化について語り合うことで、フットボールと本の魅力を再認識するとともに広く世間に発信することを目的に開催する。

各国が誇れるリーグを持つために

日本サッカーとアジアサッカーのレベルアップ、共存共栄を目指して2012年にスタートしたJリーグの「アジア事業」が、間もなく3年を迎える。この間のアジアサッカーを取り巻く環境の変化、活動と成果、今後の課題などについて報告する。 Jリーグ常務理事 中西 大介

状況の変化

このところ、10月から始まるインドスーパーリーグ(ISL)に関する話題をよく耳にするようになった。元日本代表監督のジーコ氏がISLのクラブの監督に就任し、アレックスandro デルピエロ(イタリア)、ダビドトレゼゲ(フランス)、フレドリック ユングベリ(スウェーデン)ら、往年のスター選手も参戦。アジアのサッカーマーケットの拡大を示す出来事の一つで、インドやタイなどは明らかに自国内で市場をつくり出そうとしている。ベトナムやインドネシアでも資産家がサッカーに投資するなど、同様の動きがある。

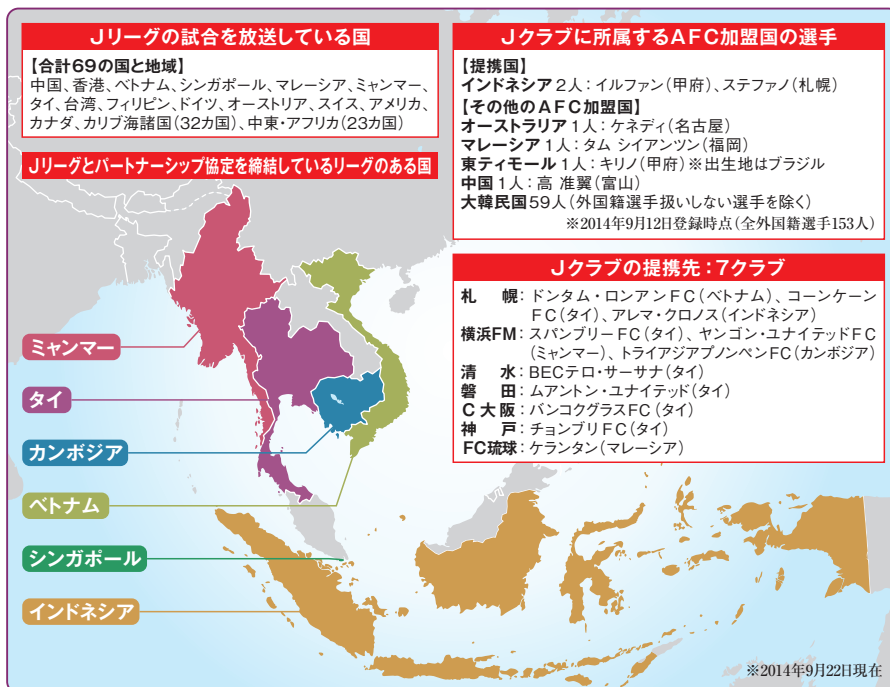
一方、イングランドのプレミアリーグ放送権料の多くがアジア諸国によって支えられ、ドイツのブンデスリーガがシンガポールに事務所を開設したように、欧州のリーグやクラブがサッカー人気の高いアジアに進出を図っている。

「日本サッカーが国際舞台で好成績を収めるには、アジアサッカー全体のレベルアップが不可欠」との観念に立ち、Jリーグがその推進役となるべくアジア戦略室(現 アジア室)を立ち上げたのが2012年1月。リーグに付加価値を与えていこうとスタートしたものの、前述のように当時としては想定外の状況も生まれ、アジア事業はJリーグが同地域でリーダーシップを取るために不可欠な活動となってきた。そうした状況の変化を認識することが、今後の同事業にとって重要なファクターとなる。

活動の三本柱

Jリーグがパートナーシップ協定を締結しているリーグがある国々は、サッカー熱が高く、ハイレベルな欧州サッカーへの関心も高い。それは当然のこととして、Jリーグが考えるアジアサッカーの発展は、各国の人々が自国のリーグやクラブに誇りを持てるような状況を創出することにある。アジアのサッカーマーケットを大きく堅固にすることが、アジア全体のレベルアップも促し、Jリーグの発展にも還元されるという考えだ。

そのための活動の三本柱としたのが、まずJリーグの試合を放送する基盤の確立、そしてサッカー指導、指導者育成、普及活動などを通じた地に足を付けた人的交流、さらにトップクラスの選手がJリーグでプレーできるような環境を整えることである。三番目については、アジア枠とは別に提携国枠を設けた。J1レベルで活躍できるような選手がまだ現れないのが現状だが、それでも東南アジアの選手を獲得したコンサドーレ札幌、ヴァンフォーレ甲府などは、それぞれのホームタウンと選手の母国を直接結び付ける効果を生み出したと思う。



各国が誇れるリーグを持てるか、そこにJリーグがどれだけ貢献できるかが、アジア事業の成否を判断する物差しの一つだろう。Jリーグはそのために、約20年で培ったノウハウを、惜しみなく提供してきた。

弱みを強みに

対アジアの取り組みで、本来なら弱みであることが強みになることも分かった。まず、日本もかつてはサッカーが弱かったということ。日本代表は30年ほど前まで、タイやマレーシア、インドネシアなどに負けることがあった。それがFIFAワールドカップに5大会連続出場できるようになるまで成長したことが、現地の人々の関心を引き付ける。「われわれにもできるかもしれない。日本に学びたい」というわけだ。

二つ目は、サッカー発展途上にあるアジアの仲間だということ。サッカー界では欧州や南米以外はハンディが大きいと思われがちだが、経済成長も著しいアジアに在ることを強みとして共に成長するパートナーという意識が持てる。

三つ目は後発であること。先人たちの失敗を教訓としながら、それを参考にできることがメリットになる。アジア事業で大切にしていきたいのは、この三点である。

また、日本が国としてASEAN(東南アジア諸国連合)との関係強化を図っており、Jリーグがどれだけ貢献できるか。国や企業がASEAN諸国と良好な関係を結ぶために、現地で絶大な人気を誇るサッカーが大きな力を発揮する可能性がある。企業間の橋渡し役など、サッカーを通

じた関係が実を結んだ例も多かった。

ネットワークづくり

今後のテーマとしては、現地の一次情報をいかに入手するか。関係者の往来は盛んになったものの、現地でなければ分からないことも多々ある。国の機関、現地の法人・個人、二国間の友好関係づくりに奔走する人々など、サッカーだけでなく、この地域で人々をハッピーにしようと努力しているあらゆる分野の組織、人々とネットワークを構築したい。もちろん、ブンデスリーガのように現地オフィスを設けることも選択肢の一つだろうが、目的は異なるので対抗するのではなく、Jリーグの顔が見えるような活動を行うことが重要となるだろう。

また、選手たちがアジアの各地で若いうちから積む経験は何物にも代えがたく、育成年代の交流を圧倒的に増やしたいと考えている。各国で開催される大会に出場し、あるいは日本で国際ユース大会を創設して招く。指導者の交流も生まれ、お互いに得るものは大きいはずだ。



パートナーシップ協定締結後、初めての現地活動となったタイ・アユタヤでのサッカークリニック

アジア事業トピックス

村井チェアマンが特別ゲストとしてVリーグアウォーズに出席

Jリーグがパートナーシップ協定を締結しているベトナム国プロリーグ（Vリーグ）の年間表彰式「Vリーグアウォーズ」が8月20日に同国のホーチミン市で行われ、村井 満 Jリーグチェアマンが特別ゲストとして出席した。

2012シーズンはJリーグからスタッフを派遣し、同アウォーズの運営をサポートした。今シーズンは初めてファン・サポーター約500

人を招待し、ベストイレブン、得点王などの表彰が、人気歌手によるショーなどを交えて華々しく行われた。

特別ゲストとして登壇した村井チェアマンが「ぜひ、FIFAワールドカップに日本とベトナムで一緒に出場しましょう」とコメントすると、会場に詰め掛けたファン・サポーターからは大きな歓声が上がった。



Vリーグアウォーズの様様。こしはファン・サポーターも招待されて華やかさも増した



スピーチする村井チェアマン。感想は「Jリーグアウォーズと紅白歌合戦を合わせたような一大イベント」

同アウォーズには村井チェアマンの他に大東和美 前Jリーグチェアマン（現：株式会社Jリーグメディアプロモーション会長）、田中孝司 Vリーグ大会組織委員長なども出席。村井チェアマン、大東会長は滞在期間中、田中委員長との会談、現地の日本領事館やサッカー関係者との交流や施設訪問などを行い、ベトナムサッカーの現状把握や、両国サッカーの親交に努めた。

川崎フロンターレ サッカークリニック in ベトナムを実施



ベトナムの子どもたちがサッカーを楽しみ、日本の遊びや生活の一部を体験した2日間となった

ベトナムのビンズン省にあるビンズンFCグラウンドで8月23、24日に「川崎フロンターレ サッカークリニック in ベトナム」が開催され、2日間で現地の計340人の子どもたちが参加した。

「生活文化の特色を生かした魅力ある商品・

サービスの構築・魅力の発信」を目的とした経済産業省の新興国市場開拓補助事業の一環として開催され、サッカークリニックの他に日本の各企業の現地におけるPR活動も実施。当日は約1時間半のサッカークリニックをはじめ、プラモデルの製作体験や、9月から

運行が始まるベガメックス東急バスの乗車体験なども行われた。

参加した子どもたちは、サッカークリニックでは終始笑顔で、また初体験というプラモデル製作体験では悪戦苦闘しながらも楽しんで取り組んだ。サッカークリニックでは、参加者が体を動かす喜びを味わい、日本の遊びや生活の一部を体験する時間も提供できた。



元気いっぱいボールを追った子どもたち

Vリーグ関係者が来日。村井チェアマンらと懇談

9月19～24日の6日間、VリーグやVクラブの関係者、ベトナムメディアの総勢31人が来日し、J1リーグ戦2試合の視察をはじめ、Jクラブ施設やJFAハウス見学、プリンスリーグ視察などを行った。また、Jリーグや日本サッカー協会（JFA）の各種事業説明や、視察先のクラブの協力を得て、クラブの組織体制や経営基盤、ホームタウン活動、育成など、多岐にわたる情報提供を行った。

Vリーグとは現地でのU-13 Jリーグ選抜の海外キャンプや、サッカークリニックなどの普及活動を実施してきたが、大規模な視察を迎えるのは今回が初めて。リーグの運営やマネジメントに関する情報の交換というパートナーシップ協定内容の一つが、初めて本格的に実現した。来日した19日には歓迎レセプションが開かれ、村井満 Jリーグチェアマンが「同じサッカーファミリーとして頑張りましょう」とあいさつした。



歓迎レセプションで。左から、ベトナムプロサッカーリーグ（VPPF）社のチャンドウイリー専務理事、中野幸夫 Jリーグ専務理事、VPPF社のファンゴックヴィエン社長、村井チェアマン、ベトナムサッカー連盟のドゥオンヌギープホイ副事務局長、田中孝司 Vリーグ大会組織委員長

小宮山 悟 Jリーグ理事に聞く(下)

「Jリーグの中でも切磋琢磨してレベルアップできる」

ことし1月からJリーグ理事として活動する元プロ野球選手、小宮山 悟氏のインタビューを前号に続いてお届けする。サッカーと野球の違い、日本サッカーのレベルアップ、Jリーグ百年構想の理念などについて伺った。

PROFILE

小宮山 悟(こみやま さとる) 1965年9月15日生まれ、千葉県出身。芝浦工業大学柏高校、早稲田大学を経て、1989年にドラフト1位でロッテオリオンズ(現 千葉ロッテマリーンズ)に入団。横浜ベイスターズ、アメリカ大リーグのニューヨーク・メッツでプレー後、2004年に千葉ロッテマリーンズへ復帰し、09年に選手生活を引退。現在はプロ野球解説などを中心に活動。ことし1月、Jリーグ理事に就任した。

※このインタビューは2014年8月1日に実施しました。

目指すところの違い

—— Jリーグがスタートした1993年、小宮山さんはすでにプロ野球選手として活躍していました。同じプロリーグの誕生をどのように見ていましたか。

小宮山 始まるまでは「大丈夫かな」という思いしかなかったですね。それまでのJSL(日本サッカーリーグ)が集客面で苦戦しているのを知っていましたから。それをプロにしたところで「どうなんだろう」と。ところがふたを開けてみると、ものすごい数の人が(スタジアムに)入っているじゃないですか。正直に言って今度は「このままでは野球の人气が少し食われるかな」という、不安みたいなものを感じましたね。

—— 開幕から3年目になると、Jリーグの入場者数は減少しました。

小宮山 高校時代からサッカーこそがワールドスポーツだと思っていたので、かなり心配しました。何か解決策はないものかと考えましたが、当時はプロ野球選手で、メディアを通じての情報しかなかったし、真剣に考えたわけではありませんが。でも、当時の川淵三郎チェアマン(現日本サッカー協会最高顧問)をはじめ、Jリーグの関係者の皆さんは大変だったと思いますよ。Jリーグの成功に懸ける思いは、相当に強かったでしょうから。

—— 同じプロスポーツでも、サッカーと野球で異なるのは、どういったところでしょう。

小宮山 先日、Jリーグ特任理事の宮本(恒靖)さんと話す機会があり、「目指すところが最大の違いではないか」となりました。小学生に将来の夢を聞くと、サッカーでは「日本代表に選ばれて、ワールドカップに出場したい」と言う子どもたちが多いのではないかと思います。野球にも侍ジャパン(野球日本代表)がありますが、侍ジャパ

ンでプレーしたいという子どもは少ないんです。「 Yankeesでやりたい、ドジャースに入りたい」と言う子どもが多いと思います。

サッカーは代表チームありきでクラブチームがあり、そこで欧州のクラブでプレーしたいというのはありますが、最終的な目標は代表だと思うんです。甲子園で活躍した選手にマイクを向けても、5年後、10年後に侍ジャパンで活躍したいと答える選手は少ないでしょう。そこがサッカーと野球の違いだと思っています。

—— 選手がJクラブから欧州など海外のクラブに移籍する流れを、一部では心配する声もあります。

小宮山 積極的に海外で挑戦するのもいいと思います。それに続こうという選手たちが、Jリーグで頑張ればいいわけですから。本場のトップレベルでプレーするのは本当に大変なことなら、国内でおぼつかない選手には無理でしょう。Jリーグで圧倒的な力を見せつけ、「あいつにはもうかなわない」と言われるレベルにならないと欧州では活躍できないと考えれば、かなりレベルが高くなるはずですよ。逆に、最初から「将来は海外のクラブでプレーする」と宣言してJリーグのピッチで戦った方が、見応えもありますよ。そうやって、Jリーグの中でも切磋琢磨してレベルアップできるんじゃないかという気がしますね。

理念あってこそそのJリーグ

—— 日本代表が強くなるためには、Jリーグのレベルアップが欠かせないということですね。

小宮山 まさに日本サッカーの土台ですね。土台が大きく、堅固であればあるほど、しっかりしたものがどんどん積み上がっていく。その部分をいかに構築できるかと考えた時に、Jリーグ

がしっかりしないといけないと思いますね。底辺を支える小中学生がプロの試合を見た時に、「すごいな」と思わせるプレーをたくさん提供することが大切です。

—— Jリーグが「Jリーグ百年構想」という理念を掲げて活動していることは、どのように思いますか。

小宮山 その理念があってこそそのJリーグだと思っています。まさにJリーグが前面に出すべき部分でしょうね。以前、川淵さんがJ3クラブの実行委員などの方々を対象に開いたJリーグ理念の勉強会に同席させてもらったことがあります。Jリーグ創設に至る苦労話などを聞いて、本当に理念を大事にしていかなければと思いました。新たにJリーグに加わる仲間、理念を共有してもらうという取り組みがあるということは、すごいことです。プロ野球は12球団しかありませんが、Jリーグは今後も全国に拡大していくという流れがあり、それに伴って理念も広がって共有できるというのは素晴らしいことです。

—— 今後はJリーグ理事として、どのような取り組みに関わっていきたいですか。

小宮山 今はいろいろなことを勉強中で、大きなことは言えませんが、集客の施策などに興味があります。例えば今シーズン、セレッソ大阪にフォルラン選手が加入して、入場者増につながり、他のクラブも少なからず恩恵を受けました。一方では、日本人選手によって、そういう状況が作り出せたらと思います。Jクラブのアカデミーや、JFA・Jリーグ特別選手指定制度など、サッカー界は野球界にない取り組みを行っています。そういうところにアイデアを出したり、アドバイスをできるようにしたいですね。もっとも、育成などJリーグは私の考えよりはるか先を進んでいると思うので、どこまでお役に立てるか分かりませんが。

